

I. 平成 26 年 2 月 17 日 (月) 19:00~21:00

II. 場所: 私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者: 木村委員長, 松田委員, 横山委員, 大島委員, 片岡委員, 今井委員

事務局: 井端事務局長, 森下主幹, 松本氏

IV. 配布資料

① 平成 25 年度学系別 FD/ICT 活用研究委員会の活動計画

② 心理学教育における教育改善モデルへのアンケート結果

参考 1 誰でも無料ネット講義 (新聞情報)

参考 2 大学の卒業認定厳しく (新聞情報)

参考 3 高等学校教育と大学教育との接続・大学入学者選抜の在り方について

参考 4 教授会の権限, 4 項目に (新聞情報)

参考 5 授業に「タブレット革命」 (新聞情報)

参考 6 FSP 実践講座の授業内容と運営の工夫

参考 7 私立大学等改革総合支援事業 配点区分表

参考 8 ムーク (MOOC) と反転授業がもたらす学びの変革 ~米国サンノゼ州立大学の挑戦~

参考 9 学士課程における心理学教育の質的向上とキャリアパス確立に向けて

その他 平成 25 年度委員名簿

平成 25 年度第 1 回心理学教育 FD/ICT 活用研究委員会議事概要

V. 議事内容

1. アンケートを踏まえた教育改善モデルの実現に向けた課題について

事務局より、「理事会での議論も踏まえ、先般策定した心理学教育における教育改善モデルを、配布資料の参考 9 を参照基準としてチェックすることの提案があった。特に、資料 9 の表 2 にある目標 5 「5-5 心理学的知識と技能の限界を理解する」という観点が、本委員会の授業改善モデルには欠けているのではないかと指摘された。

これを踏まえて、本委員会の 3 つの到達目標について検討し、到達目標 2 を見直すこととした。

まず、到達目標 2 で「人間の心や行動に関わる現象の要因を科学的な手法を用いて明らかにできる」と言い切っているのが問題ではないかとされ、「人間の心や行動に関わる現象の要因を科学的な手法を用いて探究できる」という表現に変更することとなった。これを踏まえて、到達目標の補足説明の部分にも、若干の変更を加えた。

次に、上の変更を踏まえて、到達目標 2 の中の到達度にも対応するものを加える必要があるのではないかとされた。種々議論する中で、統計学の委員会での議論を参考に、到達度⑤「分析結果に批判的な観点から検討を加え、結論を導き出し、新たな問題を発見することができる」を加えた。また、到達度④の文言にも若干の変更を加えた。

さらに、到達度⑤に対応して、測定方法⑤「分析結果を批判的に捉え、新たな問題を発見できることを論述式の筆記試験、レポート、論文などにより確認する」を加えた。

2. 次年度の活動方針について

事務局より、配布資料の参考 7 についての説明があった。すなわち、私立大学の教育の質向上のために、各大学の状況を参考 7 に基づいて点数をつけ、一定以上の得点を得られないと補助金が減額される方向であると説明された。特に、学生による予習復習をいかに管理するか、それをシラバスにいかに明確に反映させるか、そして、学生がわくわくするような能動的な授業をどのように実現するかが重要であるとのことであった。これを踏まえて、次年度は、心理学教育においていかにこれらを実現してゆくかの方向を検討することとなった。

そこで、来年度は、委員会で議論し策定したものを外に出すという形ではなく、委員会内外での対話集会を行ってはどうかという提案がなされ、了承された。具体的には、年に2回の委員会を開催し、1回の対話集会を行うこととなった。そして、来年度の9月あたりを目途として対話集会を開くこと、その準備のための委員会を来年度早々にも開催することとした。そして、各委員は、最大50名ていどの出席者を収容できるような教室（100人規模の教室）を無償で手配できるよう、所属大学と折衝することとなった。

3.次回委員会について

次回の委員会は、平成26年度第1回として、4月26日（土）の午後2時から午後4時まで、私立大学情報教育協会で開催することとなった。